【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成22年6月3日(2010.6.3)

【公開番号】特開2008-275473(P2008-275473A)
【公開日】平成20年11月13日(2008.11.13)
【年通号数】公開・登録公報2008-045
【出願番号】特願2007-119986(P2007-119986)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　21/17　　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/543　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　21/17　　Ａ
Ｇ０１Ｎ　33/543　　５８５

【手続補正書】
【提出日】平成22年4月16日(2010.4.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
試薬分注機構１４は、試薬の吸引および吐出を行なうプローブが先端部に取り付けられたアーム１４ａを備える。アーム１４ａは、鉛直方向への昇降および自身の基端部を通過する鉛直線を中心軸とする回転を自在に行なう。試薬分注機構１４は、図示しない吸排シリンジまたは圧電素子を用いた吸排機構を備える。試薬分注機構１４は、試薬移送部１３上の所定位置に移動された試薬セット１３ａ内の試薬を対応する各プローブによって吸引し、アーム１４ａを図中時計回りに旋回させ、プレート搬送レーン１０上の所定位置に搬送されたマイクロプレート２０の各ウェルＷに対応する各試薬を吐出して分注を行なう。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５６】
具体的には、泡・異物判定部３６は、異物判定対象物に対応する判定領域の面積が所定の基準面積よりも広いか狭いかを判断する（ステップＳ２８）。この所定の基準面積は、陰性である検体において、凝集反応が正常に行なわれた場合における非凝集血球の平均的な面積をもとに設定されている。たとえば、ウェルＷの直径が６ｍｍであって一つ当たりのウェルＷを撮像する撮像画素数が約２．４万画素の場合には、異物判定対象物の面積が２００画素に対応する面積よりも広いか狭いかを判断する。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】

したがって、泡・異物判定部３６は、この異物判定対象物に対応する判定領域の真円度が所定の基準真円度よりも低いと判断した場合（ステップＳ３２：低い）、この異物判定対象物は、非凝集血球の真円度を満たしていないため、異物であると判定し（ステップＳ３４）、この異物判定対象物に対して異物判定フラグを付与する（ステップＳ３６）。たとえば図４に示すウェルＷａにおける物体Ｊａ２は、図６の矢印Ｙ２に示すように、真円度（Ｌｘ／Ｌｙ）が０．６７よりも小さいため、異物であると判定される。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
一方、泡・異物判定部３６は、この異物判定対象物に対応する判定領域の真円度が所定の基準真円度よりも高いと判断した場合（ステップＳ３２：高い）、この異物判定対象物が、真円度が高い泡または非凝集血球のいずれかであるかを判別するために、この異物判定対象物に対応する判定領域の中心部の透過光量が所定の基準光量より明るいか暗いかを判断する（ステップＳ３８）。たとえば、異物判定対象物に対応する判定領域の中心座標点の光量が、この異物判定対象物が含まれるウェルＷ全体を撮像した全画素の光量平均値よりも明るい場合には、この異物判定対象物は、中心部が明るい泡であると判別する。また、異物判定対象物に対応する判定領域の中心座標点の光量が、この異物判定対象物が含まれるウェルＷ全体を撮像した全画素の光量平均値よりも暗い場合には、この異物判定対象物は、中心部が暗い非凝集血球であると判別する。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７７】
そして、判定部３４は、ＬＩＡ値が陽性像レベルであると判断した場合（ステップＳ６８：陽性像レベル）、ＳＰＣ値によっては陰性であると判定されＬＩＡ値によっては陽性であると判定された検体が陽性または陰性であるかをさらに検証するため、ＬＩＡ値とは異なる透過光量分布値であるＰ／Ｃ値をもとに、この判定対象である検体が陽性または陰性であるかを判定する。なお、ＬＩＡ値の陽性像レベルは、明らかな陽性像におけるＬＩＡ値をもとに設定され、たとえば明らかな陽性像におけるＬＩＡ値が１００未満である場合には、１００未満の値に設定される。なお、分析装置や分析条件によっては、ＬＩＡ値の陽性像レベルは、２００未満となることもある。